

第二小学校 9 月次避難訓練参加報告

南街・桜が丘地域防災協議会

平成 2 4 年度本部

平成 2 4 年 0 9 月 0 3 日

0 9 月 0 3 日午前 1 0 時 5 分に第二小学校で、

「学習時間中に地震発生」の放送により生徒の避難訓練が開始され、

- 2 分後に生徒が建物より避難開始
- 4 分 3 0 秒後に全生徒校庭に整列
- 9 分後に点呼終了
- 1 0 分後に校長先生の評価

の時間内に避難する事が出来た。全学年整然と非難出来ていたので、訓練がよく出来ている

感じがしました。 校長先生からは、

- 「おかしもち」
お；おさない
か；かけない
し；しゃべらない
も；もどらない
ち；ちらばらない
- 自分の命は自分で守る
- 訓練で出来ない事は、本番でも出来ない

の話がありました。



新小岩北地区連合町会防災訓練参加報告

南街・桜が丘地域防災協議会本部
平成24年09月09日

1. 序

東京都防災隣組認定団体間での情報交換をして行く事となり、今回新小岩北地区連合町会から防災訓練（水防訓練）の招待（見学）がありました。当防災協議会から岡田が参加しましたが、この地域での水防訓練の真剣さを強く感じました。

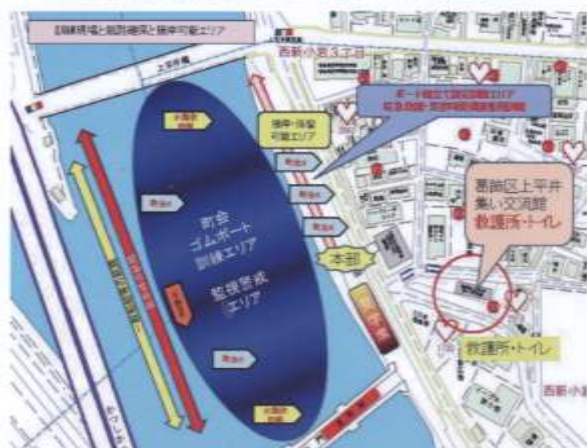
2. 訓練内容

下図の通り中川にボートを浮べての操舵他関連の訓練を行った。



《訓練場所の付近図と訓練概要》

※ 上平井橋東詰近くのテラス護岸にて実施します。



《自治町会・避難所のボート操縦訓練》

※ 護岸テラスにおいて、ボート操縦訓練を実施します。



訓練参加協力団体・関係機関等

- 町会防災市民組織・市民消防隊
- 本田消防団（第5・6・7分団）
- 葛飾区
- NPO法人ア！安全・快適街づくり
- NPO法人広域ゼロメートル市街地研究会
- 東京都第五建設事務所
- 東京都江東治水事務所（水門管理センター）
- 警視庁葛飾警察署
- 東京消防庁の各消防隊



＜東京消防庁本田消防署の指導項目＞

- 1 自治町会及び避難所のボート訓練指導
 - ①ボート組立及び安全教育訓練
 - ②ボート浮艇及び操舵訓練
 - ③ボートを活用した物資搬送訓練
 - ④救命浮環（浮き輪）投入訓練
- 2 AEDを活用した応急救護訓練
- 3 要援護者用避難支援資器材を活用した搬送訓練と展示
- 4 地震体験（起震車）
- 5 水難救助訓練（演習）及び一斉放水（地元消防団、署隊）

3. 訓練状況

式次第	
開会宣言	鈴木一喜 西新小岩3丁目町会長
主催者挨拶	松本八郎 新小岩北地区連合町会長
協力団体代表挨拶	青木克徳 葛飾区長
関係者紹介	
訓練注意事項指示	阿出川浩 東京消防庁本田消防署警防課長
訓練開始	① ボート組立、操舵訓練
	② 地震体験訓練
	③ 車両展示・広報活動
	④ 応急救護心肺蘇生AED 災害時要援護者資器材取扱訓練
	⑤ 搬送訓練
町会訓練終了 水難救助救出訓練配置完了	
一斉放水	
訓練終了	
閉会式	
訓練講評	笠原雄次 東京消防庁本田消防署長
来賓及び関係者挨拶	来賓議員
	波多野真樹 国土交通省荒川河川事務所長
	東野 寛 東京都江東治水事務所長
	石川金治 NPO法人安全快適街づくり理事長
閉会宣言	町山光司 新小岩5丁目町会長

開会式状況



一斉放水



ボート訓練会場



ボートでの救命訓練



スカイツリーを望む



訓練会場全景



冊子「東京防災隣組」作成のインタビュー

南街・桜が丘地域防災協議会

平成24年09月13日

1. 序

表題について9月13日に小冊子作成会社「キョウエイアドインターナショナル」よりインタビューがあったので以下報告致します。

2. 冊子の作成目的

東京都は本冊子の作成目的を以下の通りとしています。

- (1) 大地震に備えて危機意識を呼びかけ、自助・共助の重要性を訴える。
- (2) 「東京防災隣組」認定団体の皆様の取組を広く紹介し、新たな防災活動のきっかけをつくる。
- (3) 防災に対する認定団体の皆様の熱意を伝えるメッセージ性を持った冊子を作成する。

3. インタビュー参加者（敬称役職名略）

- (1) キョウエイアドインターナショナル；岡田、透野、砂田
- (2) 防災協議会；椎野、喜井、藤田、斉藤、岡田(撮影)



4. インタビュー内容

当災協議会の活動状況内容をパワーポイントでの資料をプロジェクターを使用して説明及び、当防災協議会が作成した、

- 防災地図
- 地デジ測定報告書
- 地域放射線量測定報告書

の紹介の後、

具体的に協議会の最近の活動状況及び各種問題点並びに今後の活動のあり方等、種々の内容について話し合いを行いました。

以上

第6回 消防避難訓練

南街・桜が丘地域防災協議会本部
平成 24 年 09 月 29 日

12年 東京ユニオンガーデン 第6回消防避難訓練	
式次第	司会 飯嶋防犯・防災理事
一、開会の辞	飯嶋理事
一、主催者挨拶	平野理事長
一、来賓挨拶	北多摩西部消防署 石川署長
一、訓練説明	飯嶋理事
一、各コーナー自由体験	
一、放水	東大和市第七分団 宝田分団長
一、総評	東大和市第七分団 飯嶋理事
一、閉会の辞	

東京ユニオンガーデンの消防避難訓練が秋晴れに恵まれた平成 24 年 09 月 29 日に左記の通り実施されました。

当日は約 800 世帯中約半数の世帯の参加がありましたが、参加者が多いのは日頃から住民の防災／避難訓練に対して関心が高い事を示すものと思われます。



3. 連絡・救護コーナー

- ① 応急・救護
- ② AED
- ③ インターホン
- ④ 通報
- ⑤ 三角巾



1. 避難コーナー

- ① 煙体験
- ② 避難ハンゴ
- ③ 避難用パーテーション



2. 消火コーナー

- ① 水消火器
- ② 警報システム(パネル)
- ③ 連結送水管システム
(パネル)



4. はしご車・子供消防衣



6. 炊出しコーナー



5. 防災・備蓄コーナー

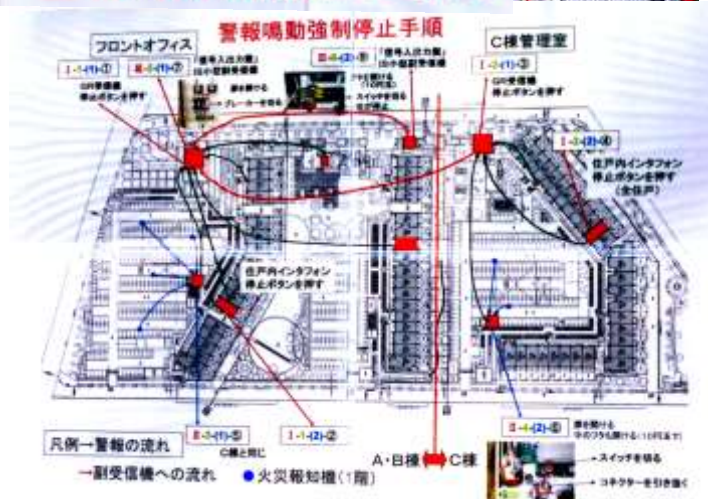
- ① 管理組合備蓄品
- ② HCM推奨品



- ① 煙体験
- ② 避難ハシゴ
- ③ 避難用バーテーション

- ① 煙体験
- ② 避難ハシゴ
- ③ 避難用バーテーション

非常の際は、ここを破って
隣戸へ避難できます
避難のためこの付近に物を
置かないで下さい



東大和市第七分による放水実演



本訓練は第七分団部分団長
宝田様に総評をして戴き
ました。



平成24年度大和会東大和地区(東大和病院) 災害訓練(トリアージ) 参加報告書

南街・桜が丘地域防災協議会本部
平成24年10月20日

平成24年10月20日に平成24年度大和会東大和地区(東大和病院)災害訓練が、東大和市役所、東大和医師会、東大和薬剤師会、北多摩西部消防署及び東大和警察署の協力により実施され、当協議会からは模擬傷病者として第二小学校のPTAの方も含め7名及び見学者として12名が参加し、昨年同様貴重な体験をさせて戴く事が出来ました。

この訓練は今回で9回目を迎えるとの事ですが、毎年訓練内容が向上し、より実戦的になっている事を感じました。

東大和病院は震災の拠点病院として我々には極めて重要な病院ですので、今後もこのような訓練には積極的に参加させて戴きたいと思っております。

1. 予備知識

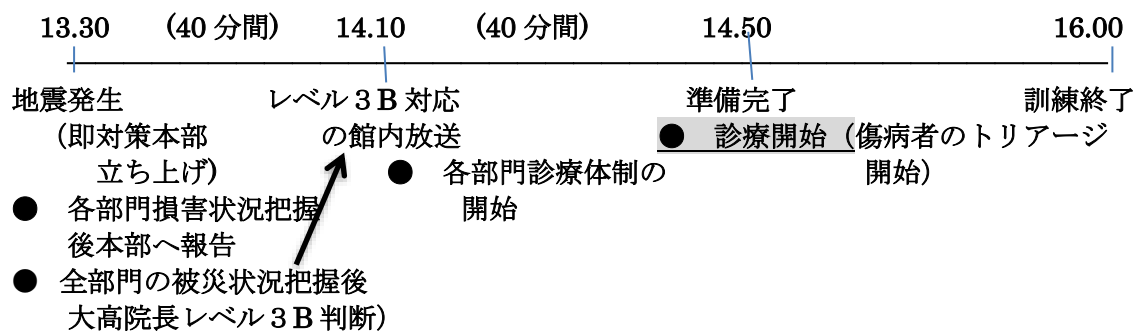
災害発生時病院での対応レベルが下記の通り区分されており、今回は13時30分に震度6の地震が発生病院全施設の損害状況を確認の結果「レベル3B」で対応する事になりました。

レベル0	救急センターのみで対応可能
レベル1	救急センターの対応能力を越え災害対策本部の設置が必要 関連職員の応援を要する 診療体制は概ね平常通り、一部の外来で対応可能 予定手術は延期
レベル2	多くの関連職種への対応を要する ・外来を中止(あるいは被災患者優先とし) 必要な新設部門を設置 ・職員のマンパワー、被災患者の数に応じて 中等症患者対応に外来ホールを使用 ・軽症者【緑】は救護所(緑班)または外来で処置
レベル3	全職員で長期間にわたり対応
	・全新設部門の設置
	・当院の被害状況の程度で以下の3段階を判断
3A	: 被害なし。概ね通常の診療が可能
3B	: 被害あり。部分的に診療可能
3C	: 甚大な被害。診療不可能(避難体制をとる)
※自主登院は、震度6以上(多摩地区)とする。	
①総務課は最新の職員名簿を対策本部に持参する。	
②案内班は職員名簿を基に自主登院した職員の出勤を確認・把握する	

2. 今回訓練のタイムテーブル

今回の災害訓練のタイムテーブルは以下の通りでした。

基本的に事前準備をせずに対策本部立ち上げ～診療体制の開始迄はこの様な時間が必要と感じました。



3. 訓練状況

対策本部は下記の通り3部門に区分され手際よく被災状況報告を受けていました。



被災レベル記入ボード(報告に基づき災害レベルを記入)



総合案内所



被災状況の報告を受け

14時08分にレベル3Bを判断



トリアージ受付





トリアージ開始



緑診療班(野外テントでの診療)(軽傷患者)



受付状況



診療状況



黄色診療班(中症患者)



診療待ち状況



赤診療班 (重症患者)



診療状況



診療記録中



黒診療班（手当不可能患者）



各種設備対応状況



放射線設備



軽症患者待機所



炊き出し状況



H24 年 大和会 東大和地区 災害訓練概要

実施日程	平成 24 年 10 月 20 日(土) 13 時 30 分～17 時 00 分
訓練場所	東大和病院、東大和ケアセンター構内
訓練参加予定者 — 調整中 —	東大和市医師会、東大和市役所、東大和市薬剤師会、北多摩西部消防署、 東大和警察署、東大和市自治会(敬称略順不同)、東大和地区職員 等
災害想定	1. 平日の日勤帯に、震度6の地震が発生した 2. ライフラインに関して ・水は使用可能。停電のため非常用電源のみ使用可能 ・都市ガスに関しては使用不可能。エレベーター、電子カルテは使用不能 ・外線電話は使用不可。災害優先電話、衛星電話、防災行政無線、PHS・内線のみ使用可能 3. 建物の被害は、各部署で棚の物品散乱状況 また、病棟や老健施設内でけが人が数名発生しているが、院内待機の状態である
事前準備	1. 各部署のアクションカードを見直しする 2. 事前勉強会(新入職員向け。木庭医師)、トリアージタグ勉強会、机上訓練等を実施予定
訓練内容	1. 初動の流れをアクションカードに沿って実施されているか検証する(BCP 策定に向け準備) 発災時は自部署に戻る。各部署は、患者・職員の安否確認・被害状況の確認を行い対策本部に報告する ・不明者を確認する ・医師は各科の科長が各医師の安否確認を行う ・他部署の職員、患者の安否の報告を行う 2. 負傷者の救出、診療 ・負傷者の診療をする ・帰宅困難者の帰宅誘導を行う 3. 新設部署を立ち上げ、緊急診療を始める ・各科長は新設部署への派遣者を決定し指示する ・各所属長は、決められた派遣部署への応援要員を決定し、派遣する ・実際の診療時間の検証
医師会、市、自治会との連携	・ 東大和市医師会、市役所と合同で、トリアージ班・緑班でトリアージと処置訓練を実施。 ・ 電話回線が不通となった場合を想定し、防災行政無線での通信訓練を実施。
消防署との連携	救急車にて、重症者等を病院へ反復搬送する、等(詳細は当日ご説明予定。現在内部調整中)
警察署との連携	パトロール中の警察車両が被災者を見出し搬送、等(詳細は当日ご説明予定。現在内部調整中)
当日の スケジュール	13:30 震度6の地震発生 ・対策本部の設置(災害レベル 3B にて対応) ・各部署被害状況の把握、患者・利用者の安全確認と把握及び帰宅誘導、火気点検 ・本部への報告 → 院内の安全及び安定の確保 14:15 対策本部より災害レベルと対応についての発表 診療体制の準備(新設部署準備)→受入 16:00 訓練終了 16:05 講評及び反省会(お時間ございましたらご参加の程よろしくお願い申し上げます。場所は7階会議室になります。重ねて、ご講評シート記入のご協力もお願い申し上げます)。 17:00 終了

東大和病院



東京都立東大和南高等学校 避難訓練・防災講話・宿泊防災訓練参加報告

南街・桜ヶ丘地域防災協議会本部
平成24年11月01日

11月01日に標題の宿泊を伴う防災訓練は同高等学校として今回初めての事業でしたが、予定通り実施する事が出来ました。この訓練に当該協議会から41名が参加し、各種施設の開設訓練への参加、防災講話の受講及び学生の訓練見学及び女性班「たんぽぽ」会員（7名）による学生へ「炊き出し訓練」の指導を行いました。

尚本訓練についてマイテレビ社の撮影があり、後日その訓練状況が放映されました。

1. 参加生徒／教員・職員数
生徒総数 ; 280名
教員・職員数 ; 22名
2. 参加団体
北多摩西部消防署、東大和市役所、同高校 PTA 及び南街・桜ヶ丘地域防災協議会
3. 訓練内容
 - (1) 避難訓練 ; 全校で実施
 - (2) 防災講話 ; 首都大学東京 山崎晴夫教授「立川断層について」
(全校、参加団体全員)
 - (3) 宿泊防災訓練 ; 一年生全員
訓練内容は以下の通りです。
 - 地域住民避難所設営訓練
 - 担架による救急搬送訓練
 - 煙体験訓練
 - 消火器及び消火栓設置位置確認
 - 非常食の炊き出し訓練（当該防災協議会女性班「たんぽぽ」がお手伝いしました）
 - 初期通報訓練
 - 消火器初期消火訓練
 - 起震車体験
 - 宿泊訓練（学校の校舎内で宿泊しました）
4. 訓練状況

起震車体験





消火器初期消火訓練



担架による救急搬送訓練



地域住民避難所設営訓練



煙体験訓練



非常食の炊き出し訓練（当該防災協議会女性班「たんぽぽ」がお手伝い）

